

わたしたちは同じ4月を繰り返さない

LINEを活用した学生支援

第28回 大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム「教育機関DXシンポ」

野口 岳 九州大学21世紀プログラム4年/iQ Lab共同代表

2020年4月

わたしたちは一度、失敗しました



「学生の4割が孤独や孤立を感じる」アンケート結果 九州大学

2020年8月26日 15時09分

新型コロナウイルスによる学生生活への影響について、九州大学がアンケート調査を行った結果、「孤独感や孤立を感じる」と答えた学生がおよそ4割に上りました。

“PCの使えないZ世代なんて日本だけだ” 海外の学生との意見交換でどれだけ日本が デジタル後進国なのか知りました

clubhouseを通じて海外の学生や教育 DX関係者とも気軽に情報交換ができる
大学関係者は、もっとこうしたインタラクティブに SNSを有効活用すべき
1次情報から掛け離れた政策や EBPMを無視した政策が多く散見される

ちなみにiQ Labのclubhouseにて、本日登壇されている東大の中條さんらと
NII打ち上げトークを企画しております。3/25(木) 12:30からの予定です。



2021年4月

今度こそ誰も置いていかない

学生と大学の対立構造をまずは解消せねば

- **コロナ2年目を向かえるにあたって、今度こそ誰も置いてきぼりにしない仕組みづくりを**
 - 去年新入生たちが経験した苦労を今年も繰り返させない
 - 去年オンライン授業で経験した苦労を今年も繰り返させない
 - こうした目的を達成していく上で重要なことは、仕組みで解決することである
 - いかにか過去に困った人たちの声を抽出するか。いかにかその声を抽象化するか。いかにか現在困っている人に届けるか。これらを実現する仕組みを設計する
- **誰もが一度困ったからこそ、助け合いの絆を結ぶチャンス**
 - コロナ以前から学生と大学側には大きな分断があった
 - 学生側は不満をツイッターに書き連ね、バズって満足。大学に歩み寄るまではいかなかった
 - 一方大学側は、学生側との対話を試みるも、規模は小さく、距離感は非常に遠い印象
 - 学生目線では「どうせ大学に言っても変わらないから」という空気感や歴史が先輩から引き継がれているようにも感じる
 - 「どうせ変わらない空気」が昨年の失敗を生んだのではないだろうか
 - 学生と大学の対立構造を解消し、同じ方向を目指していくべきなのではないか

愛はお互いを見つめ合うことではなく
ともに同じ方向を見つめることである

Love does not consist in gazing at each other, but in looking together in the same direction.

- Antoine de Saint-Exupéry -

学生と大学の対立 現状の理解



散々たらい回しにされてきた
もう大学は信用できない

- 学生の本音 -



問い合わせの対応に忙殺
学生支援に時間を割けない

- 大学の本音 -

求められるのは
大学と学生の間立つカタリスト(触媒)

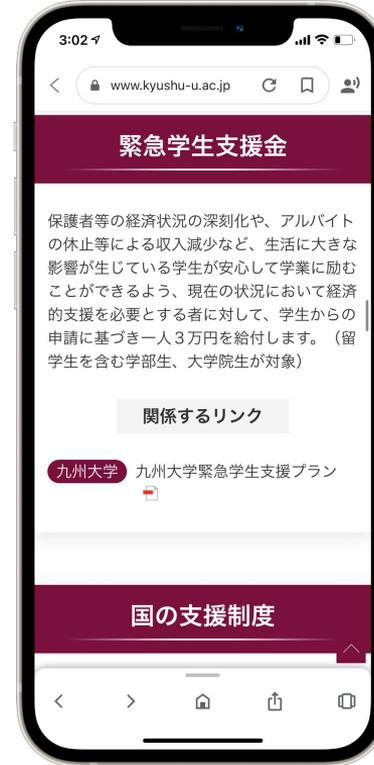
失敗ばかりではなく、良い事例もありました



退学検討を全国ニュースで見る
まさか自分の大学も...と野口は思った



Twitterでアンケートを実施
約1000件の集計を九大理事に共有



正式に大学として調査を行い
1週間後には3万円給付を決定

【論点】

いかに学生の1次情報へアクセスできるか
学生の変化に対して大学はいかに素早く対応できるか

2020年11月

**iQ Labは学生を代表して
解決に向けた施策を九州大学に提言**



散々たらい回しにされてきた
もう大学は信用できない

- 学生の本音 -



問い合わせの対応に忙殺
学生支援に時間を割けない

- 大学の本音 -

ワンストップ化

個別最適化



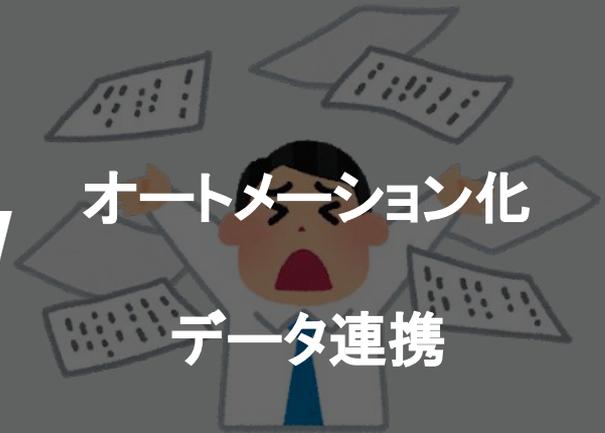
散々たらい回しにされてきた
もう大学は信用できない

- 学生の本音 -

DXのかけはし

オートメーション化

データ連携

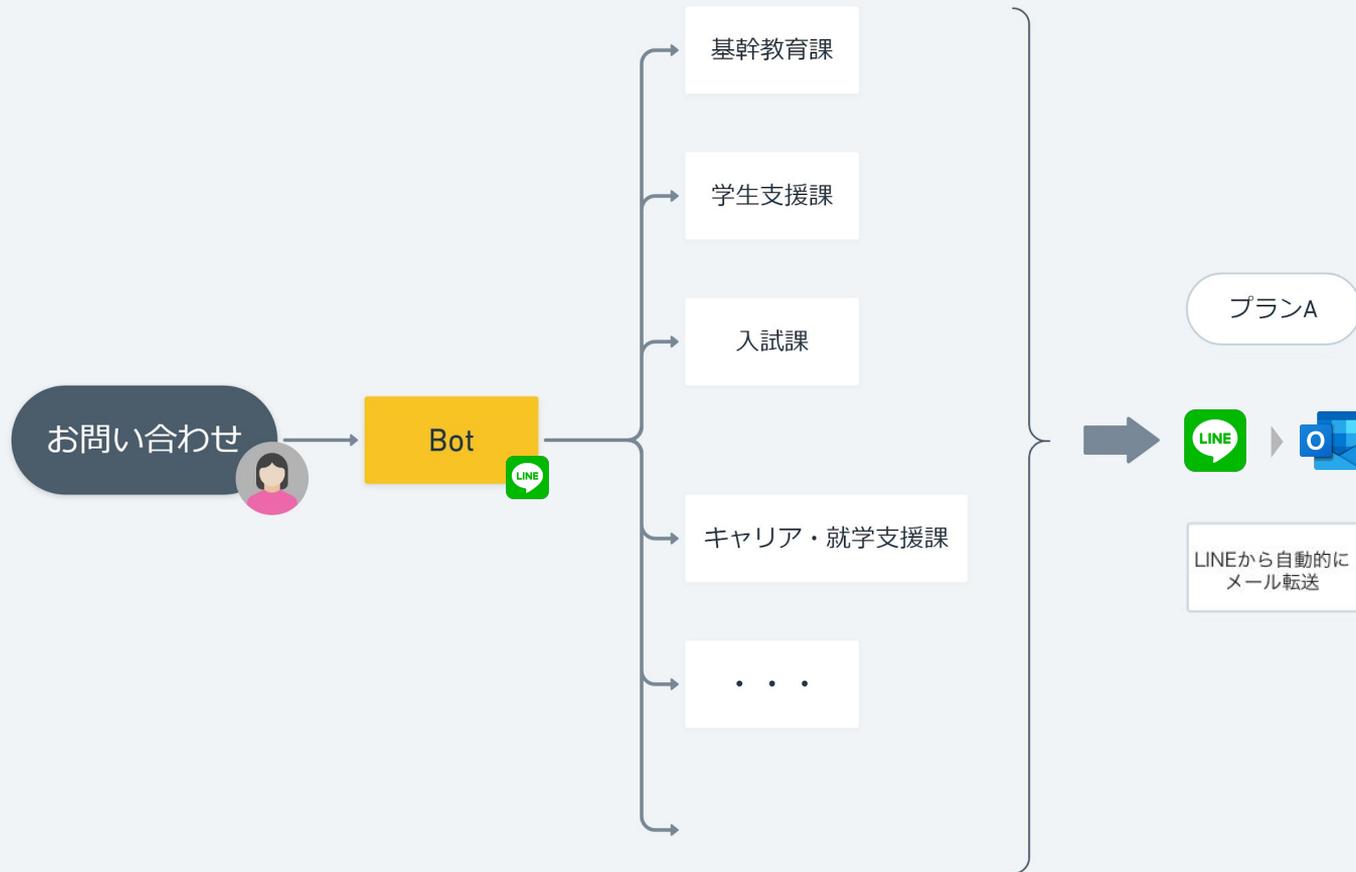


問い合わせの対応に忙殺
学生支援に時間を割けない

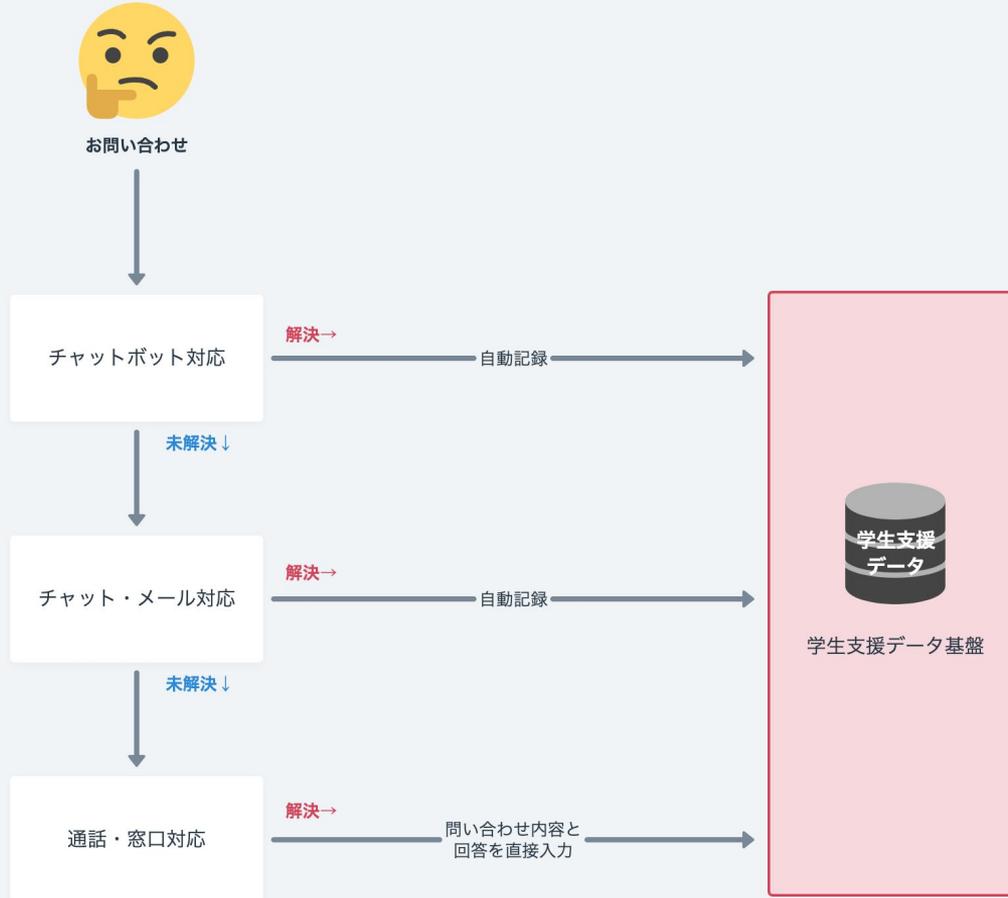
- 大学の本音 -



数多ある問い合わせ窓口をチャットボットによってワンストップ化

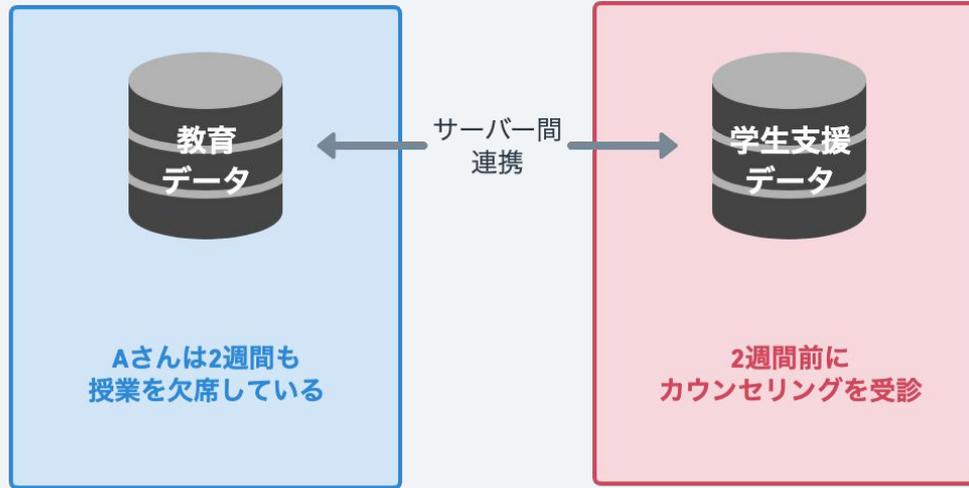


オートメーションで学生支援データベースを作成



将来的には教育データと連携を図り問題の早期発見へ

例：学生支援データベースが構築されると早期ケアが可能になる

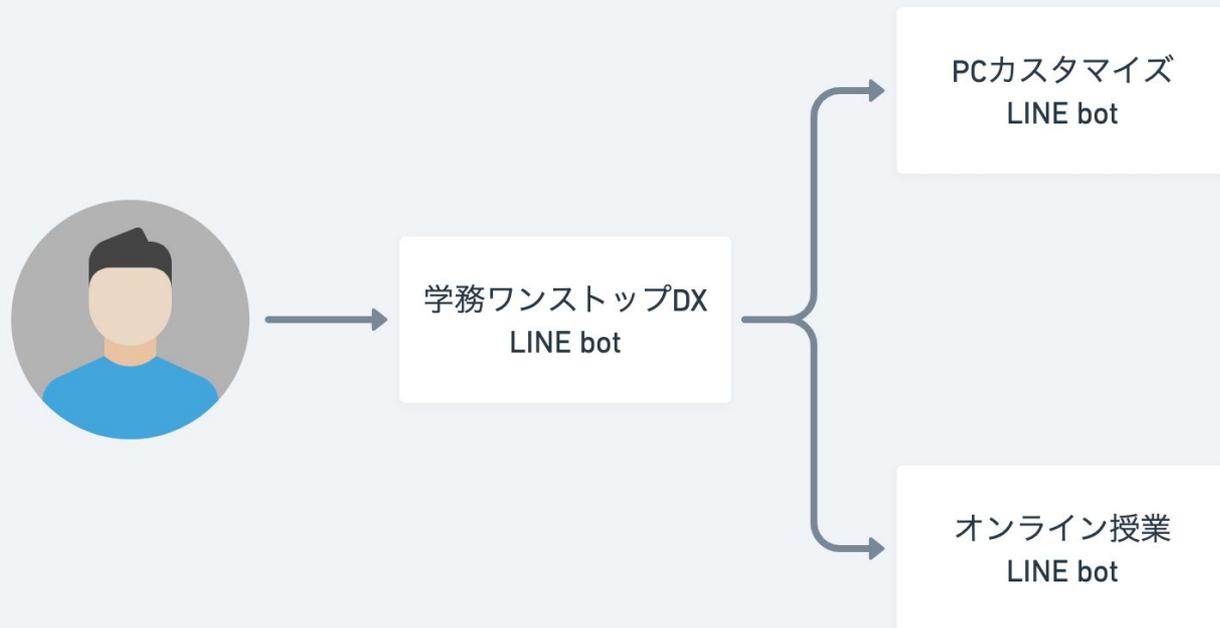


教育データと学務データをAIが照合することで
早めのアラートを上げることができる

2021年3月

現状のプロダクトの報告

現状のLINE Bot



オンライン授業 サポートLINE Bot

問い合わせの99%をBotが対応
有人対応が必要な学生からの問い合わせは10月から1件のみ

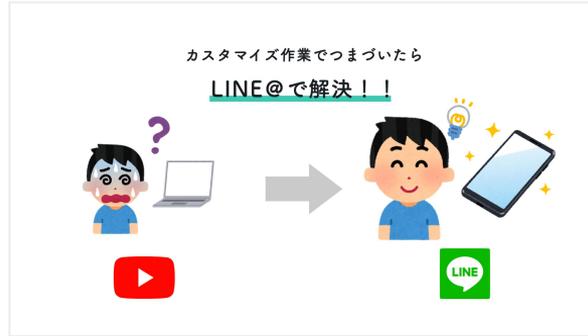


新入生PC設定 YouTube / LINE Bot

過去の問い合わせを分析し、つまづきやすいところを踏まえて動画を作成。副教材としてLINEを活用



YouTubeで完全オンラインのオンデマンド解説



✓ 用意するもの

- ・ 個人用PC
- ・ 合格通知証
- ・ スマートフォン (推奨)
- ・ LINE (推奨)

QRコード: スキャンで友達追加



Microsoft365を使えるようにしよう

※SSO-KIDの有効化から30分が経過してから行ってください

このモデルは汎用性が高く 全国の大学で利用可能なはず

iQ Labは九大モデルを全国に広め、
大学DXの浸透に貢献していきたいと考えています

出典

NHK NEWS WEB 「学生の4割が孤独や孤立感じる」アンケート結果 九州大学

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200826/k10012584561000.html>

共同通信 学生の13人に1人が退学検討 コロナで生活厳しく、団体調査

<https://news.yahoo.co.jp/articles/f73907880a5acb66adae38d9156647b90ea19c4c>



野口 岳

iQ Lab 共同代表 クリエイティブディレクター・ジュニアコンサルタント

Email : noggaku@imago.co.jp web : imago.co.jp

1998年生まれ、Z世代。九州大学21世紀プログラム所属。学部1年時から九州大学におけるNTTドコモのAI運行バスの実証実験に参画。学生支援組織のリーダーとしてAI運行バスの商用化・社会実装に大きく貢献する。また、同時期に大手AO推薦入試予備校にて九州エリアの立ち上げ・事業責任者として多くの教育現場と向き合い、地方の教育格差是正に向けてICTを用いた高校生対象のPBLを数多く展開。両者の経験から、若者の声を実社会に届けるべくiQ Labを設立。コロナ禍では、九州大学のオンライン授業サポート体勢をわずか10日で構築。学生の声を大きく取り入れたDX施策は、九州大学のみならず全国の教育関係者から高い評価を得た。その後も学生を巻き込んだオープンイノベーション型の「新しい産学連携」を数多くプロデュース。産業界と学術界の架け橋を担う。専門は「デザイン」と「産学連携」。

